

# 命のパンを食べる

「朽ちる食物のためにではなく、永遠の命に至る永存する食物のために働きなさい…わたしが命のパンである。わたしに来る者は決して飢えることがなく…わたしを食べる者も、わたしのゆえに生きる」

(ヨハネによる福音書 第6章27、35、57節)



なぜ人は何を追い求めても満たされないのでしょうか。また、何をしても十分でなく、足りないものを感じるのでしょうか。それは「朽ちる食物」を追い求めているからです。また、「真の命を持っていない」からです。人に享受と満足を与え、人を力づけ、支えるものは原則的にみな食物です。しかし、人々が追い求めている食物は物質的で有形のもの、現在あるつかの間のも、地上にある人間的なものであり、これらはみな変化し、朽ちて、味わいも変わるものです。美しい衣装やりっぱな家、貨幣もやがては朽ち、なくなってしまいます。財産もいつまでも一人の人の上にとどまることはありません。地位や名誉も長くて数十年、やがては過ぎ去ります。どんなにすばらしい家庭や夫婦の愛情もいつかは変わる日が来ます。人生の一切はみな花のように、あっという間に散ってしまいます。ところが、人はこれらの朽ちるものによって欺かれており、あくまでも朽ちる食物を追い求め、真の食物があることを知りません。一方、人の命は真の命ではなく、むなしく不完全で、人生の必要に応じることができず、また永遠に生きることもできません。

ですから、人の真の必要は永遠に存在して変わることがなく、常に享受と満足を与え、永遠にわたって人を力づけ、支えることができる「永存する食物」です。また、完全で欠けたところがなく、無限に豊かで、人のどのような必要にも応じることができ、永遠にわたって人を生かすことができる「永遠の命」です。ただ神だけがこのような食物となることができ、ただ神の命だけがこのような命です。

そのため、神は肉体と成り、永遠の命を伴った小さな「命のパン」として天から下って来られました。この方が主イエス・キリストです。キリストは十字架上で死んで、まずわたしたちの罪を取り除き、次に三日目に復活して「命を与える霊」と成られました。わたしたちが彼を信じ受け入れるなら、わたしたちのすべての罪は洗い清められ、彼はわたしたちの霊の中に入って、そこに永遠に住まわれます。彼は主観的に経験できる命のパンであり、わたしたちは彼を食べることによってその計り知れない豊富と永遠の命の満ちあふれる供給を毎日享受することができます。永遠の命はわたしたちの魂の中にも広がり、ついにはわたしたちの霊、魂、体全体が永遠の命で満たされ、浸透され、飽和され、永遠の命化されます。わたしたちは神の永遠の命を永遠にわたって生き、表現する「命の人」となります。